



こんにちは

日本共産党市会議員

<議会報告>

玉本なるみ

です

連絡先：日本共産党北地区委員会

☎075 - 432 - 3261

2014年8月②発行

終戦69年の年 戦争はあってはならない！

戦争の体験者が年々少なくなります。悲惨すぎて、語れなかった経験者が重い口を開け、絶対に繰り返してはならないと語っておられます。

戦争放棄を謳った憲法9条は、戦争被害者の命がけの大切なプレゼントとして、守っていかなくてはならないのではないのでしょうか。

→8月15日、第69回目の終戦記念の日、浜田府会議員と宣伝しました。安倍首相のもと、二度と戦争しないと誓った日本が変えられようとしていることや、集団的自衛権の行使容認をストップさせようと訴えました。



台風11. 12号や豪雨により、各地に大きな被害

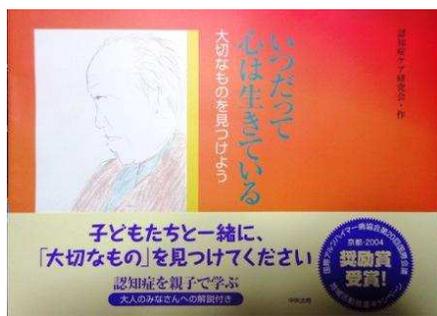
豪雨等による被災者の皆さんに心より、お見舞い申し上げます。近年の異常気象による影響を想定した防災対策が重要です。議会ですっかりと取り組んでいきたいと思ひます。

←台風11号の時の賀茂川



16日の豪雨による土崩れ【大宮】→

つばやき：認知症を考える。福岡県大牟田市では、「ほっと安心（徘徊）ネットワーク」の仕組みを作り、認知症になっても安心して暮らせるために「徘徊＝ノー」ではなく、「安心して、徘徊できる街」を目指して、おられました。地域で防災訓練は取り組まれますが、大牟田市では「徘徊SOSネットワーク模擬訓練」が年に一回行われています。そのための認知症コーディネーター等の人材育成や地域交流施設など積極的な取り組みに感動しました。認知症で鉄道事故にてなくなった家族に損害賠償を要求するJRとはえらい違いです。



認知症のことを親子で学ぶ本も発行



左から井坂市議、浜田府議、玉本市議

←京都の平和のための戦争展が立命館平和ミュージアムで開催されており、毎年参加しています。戦争の悲惨さを学ぶ機会になります。原爆で逃げ惑う親子の再現マネキンが怖いとのこと、展示場からは撤去するそうです。ちゃんと説明をしたら大丈夫ではないのかな。

アンテナ

沖縄県竹富町の決断

子ども達が学ぶ教科書は、文部科学省が検定した教科書の中から、採択を行う教育委員会で決められます。教師たちで何種類かの教科書を調査し、点数がつけられ、その点数を参考に、教科書選定協議会が採択するしくみです。

沖縄県の竹富町、石垣市、与那国の三つの自治体では「九重山地区協議会」で採択されていますが、2年前、中学校の公民の教科書をめぐって事はおきました。

調査の点数では最も点数が低い7番目の育鵬社の教科書を石垣と与那国の教育委員会の賛成5人によって採択されました。反対は竹富町の3人でした。他の教科は調査で点数の高かった教科書を採択しているのに、おかしいことが起きたのです。

そこで、先日、市会教育福祉委員会で、竹富町の教育委員会にお話を伺に行きました。採択の手順の問題だけではなく、育鵬社の教科書は、軍事力に頼らない平和への努力や憲法九条が果たしてきた役割についての記載がない。子どもの権利を尊重する視点が欠けている。等々、幾つもの問題を指摘されていました。しかも、賛成した協議会のメンバーは、まともに教科書を読んでいない。このこともわかりました。そんな中で、竹富町は、中学の公民のみ独自の教科書を選定しました。竹富町の教育委員長さんは、文部科学省にまで呼ばれ、育鵬社を使うようにと勧められたそうですが、沖縄という地域性がある。なぜ、国が検定済みの教科書に対して口をはさむのかと断固変更せず、とうとう沖縄県教育委員会は竹富町の決定を認めたとのことでした。



問題の育鵬社の中学公民の教科書

地上戦があった町として、平和への熱い思いを教育委員長さんから感じました。とてもいい学びとなりました。

